



諏訪清陵SR便り

諏訪清陵高等学校
平成 28 年度第8号
3月27日

諏訪清陵高等学校・附属中学校がスーパーサイエンスハイスクール 開発型校および科学技術人材育成重点枠校に指定されました

3月24日に文部科学省より平成29年度SSH指定内定校の発表があり、本校が平成29年度から33年度までSSHに指定されることが内定しました（新規開発型全国13校のうちの1校です）。なお、SSHの指定と同時に「科学技術人材育成重点枠」にも指定されました（全国新規8校のうちの1校です）。

新たなSSHの研究開発課題は、『学習の場「清陵ネット」で展開する探究力あふれる人材の育成』です。「清陵ネット」という校内ネット環境を活用して、場所や時間に囚われることない探究活動が出来るようにし、学校全体を探究心あふれる人材で満ちた環境にすることを目的としています。そのために探究活動の環境の整備と、学習の場「清陵ネット」を用いた課題発見能力、課題解決能力育成の研究開発と実践を行います。また、新たに指定された「科学技術人材育成重点枠」の研究開発課題は、「ものづくり集積地」諏訪に立



諏訪圏工業メッセ研修

脚した課題発見能力と独創的発想力の育成方法の研究」で、諏訪のセイコーエプソンをはじめとする先端技術産業に関わる企業での研修・見学や、諏訪東京理科大学等の大学との連携によって、生徒諸君が諏訪の風土（自然・歴史・産業）に学び、自らの原点として諏訪を位置付けつつ、「課題発見能力」と「独創的発想力」を培い、新たなビジネスモデルを生み出す次代の科学技術イノベーションを担う人材を育成する教育を研究開発します。

サイエンスリサーチ SR 生徒海外科学研修（アラスカ）旅行から無事帰国

本校2年生25名が3月1日から6日までシアトル（米国ワシントン州）・フェアバンクス（米国アラスカ州）での研修を終えて無事帰国しました。

今回の研修旅行では、シアトルで航空産業の見学と市内見学、フェアバンクスでアラスカ大学国際北極圏研究センター（IARC）で地球物理、極地の自然およびイヌイットの文化等の講義受講、本校生徒による課題研究の口頭発表（英語）、そしてフェアバンクス郊外での自然体験、オーロラの観測と極地ならではの気象条件等を利用した極地課題研究を実施してきました。

研修旅行の実施前と実施後に評価ルーブリックに沿って研修旅行の評価アンケートを実施しました。

その評価結果の概要を紹介します。

研修前、「積極的に仲間と協力しあいながら研修を進めること」「仕事は責任を持って実行する」といった**集団生活**の中で自己を成長させたいとの目標や、「自然科学に対する興味関心を深めたい」「英語圏の人々と積極的にコミュニケーションをとりたい」「国際性や実戦的な英語力を育みたい」との**自然科学分野**の研修に積極的に参加しつつ、**英語を活用して米国の方々と積極的に交流したい**との意欲を持っていたことが読み取れました。反面「課題を見出し、課題解決する姿勢をみにつけること」「「学び方の学び」を学ぶこと」など課題解決に関わる力をつけることや、「事前学習により英語力の基礎を育むこと」等には相対的に期待度が低かったことが分かりました。この観点については、もっと生徒諸君に力を入れて学習して欲しいところですので、**課題研究の事前学習と極地課題研究の準備**に関しては、今後海外研修を実施する場合は指導方法をさらに工夫する必要があります。

一方、事後評価によると「関心・意欲・態度」の評価項目すべてが、事前評価の値より事後評価の方が5段階評価で0.4以上評価が高くなっていました。海外研修を経験して「新しい発見があった」「自然科学に対する興味関心が深まった」「北極圏の自然現象に対する興味関心が深まった」など科学や科学現象についての興味関心は、現地でのいろいろな体験を積んで生徒自身の予想以上に高まったようです。旅行の総合評価は5段階で1の最高評価でした。

